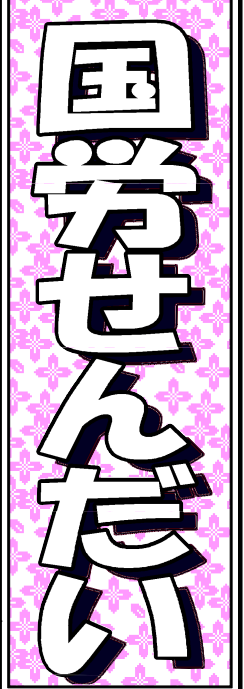


教訓を糧に次の運動へ



2017年 春闘中間総括会議特集



No. 2736
2017年6月5日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

自らの春闘の総括を

地方本部は5月7日、仙台市内において17年春闘の中間総括会議を開催した。各機関の総括を持ち寄り、賃金闘争をはじめ労働条件改善や組織問題など様々な角度から意見交換をして全体で総括した。

主催者の地本大沼委員長は、「17年春闘の基本方針は、『自らの春闘を闘う』『組合員全員参加の春闘を取組むこと』であった。また春闘の中間総括がメインではあるが、エルダー、業務委託など課題も多い。喫緊の課題である組織強化・拡大の取組みと政治課題も含め率直な議論を要請する」と集会の意義を述べ、全機関の総括報告を求めた。

続いて来賓のエリア本部佐藤書記長からは、経過・情勢等について報告を受けた。(要旨二面掲載)
続いて地本原子書記長が、17春闘の経過と今後の課題について提起し各支部報告と全体討論に入った。

◆各支部報告

宮城県支部

山田書記長

▼17春闘。我々の扱われ方・働き様を見直し、要求を勝ち取るために何をしていくか、何が出来る

5・22-23 本部監査
5・24 本社経協

R発足30年を検証する2月16日の県集会には他単産の仲間も参加。本部坂口委員長の講演で改めて闘うことの大切さを確認。

▼残念なこと。貨物組合員が55歳で早期退職した。また戦術では、納得いかない回答には「重大な決意で臨む」としていたが、スト指令はなし。東日本の回答、翌日妥結は納得せず。闘いの取組みの指示がないのはなぜか。ストについて「何か悪いこと」の認識なのか。具体的な闘いを要請する。ストを背景に要求を勝ち取っていく、国労はそうした労組でありたい。

のかを仲間と討論し、点検・摘発の強化を図った。▼貨物の闘いに学び、貨物分会のチラシ配布行動への参加、抗議FAXやジャンボハガキ、交流会や中央行動等様々な取組みを展開。

交流では、ベアゼロ・超低額の手当やカット等で苦しむ声、貨物若手社員が「働きたい、仲間に行き、残業が当たり前」という職場環境を作り出す一方、「何とかしなれば」という思いもつかれてきた。職場から声を出して仲間と議論し、十分だが創意工夫した闘いを作ってきた。

▼現場長要請。各現場では他労組も含めた要求を作成し交渉の結果を掲示板で報告。また電子レンジの増設など前進面も。小牛田地区や北部現業でも会社施設で集会。
▼分割・民営化30年、J

福島県支部

小檜山委員長

▼支部春闘討論集会での議論。郡山駅連合。駅班集会に他労組も多数参加。改札要員問題や出札の混雑問題等を議論。その中で古川氏の拡大に結び付いている。
▼貨物福島。年3回の職場交渉では賃上げと労働条件改善要求を提出。少しづつ環境整備が。過去最高の経常利益を上回っても18年連続ベアゼロ。
▼賃金始め山積する課題があるのに同じ闘いと結果。スト準備指令が出て構えても空振り。重く受け止めなければ、職場は高齢化し空気が重く、若い組合員を増やすことが重要。

▼津若松地区。遠距離通勤者の通勤費の括りが実態と乖離の一方で助勤の管理者には移動超勤。退職者の補充もなく、要員不足のしわ寄せに對する不安について議論。会津宮下駅への助勤者が信号取り扱いミス。本職場と勘違いしたか、要員不足のツケで助勤も被害者。
▼只見線では運転取り扱いは駅業務がありJR本体でエルダー採用。JR社員の配置で退職補充が本来の姿。ビックロモはやめてロモに。3月2日他労組と只見線交流。
▼冬期要求による安全通路が実現(支社17年度実行計画に記載)。冬期振戻り返り会議に国労も参加。支社科長レベルとの意見交換も習慣化。
▼エルダー。誕生日直前月等ギリギリの提示が。
▼郡山設備分会。春闘、取組みは不十分。新採対応、電力・通信・保線の各班で鋭意取組みを行うも結果出ず。
▼エルダー交流会。出向者だけでなくプロパー社員の問題も含めて議論。改善を取組んでいる。
▼組織強化拡大に向けて、「青年ネットワーク(仮称)」を立ち上げる予定。

仙総所支部

阿部副委員長

▼支部春闘総括。支部闘争委員会を設置。大衆行動。3月2日支部総決起集会に86人参加。以降の集会も5割超を達成。一方で役員が何度も行動し負担大。エルダー組合員は労働条件が厳しく「動員は勘弁」の率直な声。
▼一人一要求は全ての分会で実施。ただ委託提案の職場や検査周期延伸問題の分会全体で共有出来たのは課題。
▼現場長要請。台車・車体分会は話し合い、運輸分会も職場問題について話をしている。我々の声を「職場の意見」として現場長が聞こうとする体制を作ってきた。要求を改善するため、日常的に現場長と話しをする取組みを分会全体で作る。
▼エルダー組合員の要求は集約、会社に伝える課題が残る。JR本体要求にエルダー要求を組入れ交渉等工夫が必要。施設利用の集会は定着、しかし全分会ではない。支部が率先し通年利用を。

山形県支部
難波副委員長
▼春闘。取組みは、支部分会代表者会議、賃金ア

郡工支部

本田書記長

▼17春闘。客貨一体で運動を波及。ストを背景にした運動を上部機関に要請。分会・支部は貨物本社・支社に連日ファックス、ハガキ要請。大衆行動は5割動員達成、しかし結果は貨物が18年ベアゼロ、東日本も要求にはほど遠い。今後の運動への課題が残る。
▼17年業務改善。直外区分見直し。提案では64人余剰。計画管理以外は外注化の方針か。会社の言う「車両品質の維持向上」「技術継承・社員の育成」「安全・安定輸送の提供」とは全く矛盾。
▼組織拡大。配属時の情報不足、新入社員に接触できず。入寮時の対策が必要。若手社員は会社・組合に不満はある一方で組合の必要性も感じていない。説明・教育も必要。
▼アスベスト。昨年退職の方が管理手帳を取得。205系車両、アスベスト含有が報道で明らかに。その影響か、会社が検診希望者を点呼で募った。
▼エルダー。郡総全体で5月2日現在、エルダー希望者40数人中、4人が

ンケート、3月の総行動。▼支部執行委員会が定例化せず。結果、職場等問題の吸い上げが出来ていない。役員も年齢構成が高く交代が急務。執行委員会の定例化を目標に。
▼エルダーの労働条件、特に保線では厳しく途中退職が出ている。

東日本本部佐藤書記長報告

1. 交渉経過

東日本本社と二回の交渉、貨物は三回交渉。本部闘争指示を受け、執行委員会で闘争態勢の強化を確認。特に東日本会社の回答指定日を超える事態があれば第三者機関の活用など重大な決意を固めた。回答指定日の3月15日、ベア千円等の回答。組合は持ち帰り検討。執行委員会では、①4年連続の有額回答。②定額でのベア回答。③GS社員の賃金改善があった。④回答指定日の順守されたこと等を考慮、国労要求とのかい離・不十分な内容だが最終回答を考慮し妥結。貨物会社は、3月17日、18年連続のベアゼロ回答。組合は持ち帰り、抗議行動の展開を行う闘争指示を発した。

2. 春闘総括

①東海はベア、夏季手当とも昨年同様、東日本、西日本、九州は昨年を下回る。貨物の18年連続ベアゼロ、北海道、四国も16年連続ベアゼロ。②企業の総人件費に占める社会保険等費用の割合は15%近く、企業の人件費負担が増大。賃金の上昇ペースは社保費の増加により抑制とも見れる。③国労統一要求額の1万5千円は平均基本給を基礎額とし、物価上昇分と生活向上分を考慮し算出。ただJR各社の経営体力にマッチしているのか、また夏季手当も3ヶ月の統一要求だが、北海道、東日本、貨物以外は春闘で回答済。各エリア本部とのすり合わせが必要。④地方では全体集会、学習会、春闘行動が取組まれ、東日本本部に対する激励も70を超える機関から。⑤本部闘争指示に基づく闘争態勢の強化に向け、東日本本部執行委員会と各地方書記長会議で議論が深められた。⑥東日本は増収増益、営業収益、運輸収入は5期連続増収かつ過去最高。当期純利益も2期連続の増収かつ過去最高。貨物

は鉄道事業部門黒字化達成、連結決算百億円以上の持続的確保を目指す。⑦東日本本部は、不誠実団交への対応も準備しつつ、他労組との対話行動や全分会オルグ等、組織拡大につなげる取組みを提起。一方、職場の問題点を全体の問題として改善に向けた取組みの強化、大衆闘争の取組みの成果が不十分である等を総括し今後につなげる。

3. 組織強化・拡大

東日本本部組織部長会議での意思統一は、全職場で対話活動を展開し仲間の声の集約と共有化、全体化するための全分会オルグ。同時にG会社での組織拡大も重要。ジェスは5百人のプロパー社員が未加入、TSSも2百人のプロパー社員がおり、どう切り込むか重要な段階。地方と連携しスピード感をもって対応する。この間の経験と努力を組織全体に広げ、一人の頑張りから全体で一歩前に進む議論と行動を。組織拡大は「国労要求の前進に欠かせない闘い」を全体で確認し、17春闘、職場・地域での闘いを組織強化・拡大につなげる。

4. 労働条件改善・安全安定輸送の確立

労働条件に関する協約改定交渉を2月9日実施。会社は①包括的一括和解の懸案事項である支社跨ぎの異動の改善では「会社全体の課題の認識、最大限の努力を図る」②65歳定年、エルダー制度見直しについては、「活躍の場の確保は会社の責任、強い問題意識を持っている」等考えを示す。引き続き改善を求める。「土木・建築一部業務見直し」「新幹線交番検査周期延伸」に関し限られた時間の中、職協等の協力を得て鋭意交渉、また「有害な化学物質に関する」交渉では、会社は無害であるとの認識。引き続き改善を求める。

▼二年ぶりにベア千円、契約社員月額1000円、運転手当1800円を勝ち取る。運転手当は平成18年に五百円引き下げられた経緯もある。

東北自動車支部 兜森書記長

▼ジェス社員がJR東の住宅を利用してると聞くと聞くと、バス東北の社員も可能では。

◆全体討論

▼組合員はエルダー・出向社員・プロパーで構成、高年齢化。昨年、大会時に宮里弁護士から同一労働同一賃金の講演があり、団交でバス社員と契約社員の通勤手当や年間休日間の格差を指摘、通勤手当が是正されたのは成果。ただし労働時間は非現実業が年1855時間、現業2000時間の格差。是正を取組む。

未提示。6月末で退職する組合員に5月2日に一人提示。提示が遅い・希望に沿えない内容のチラシ配布を前週2度行つたが、他労組から労組とは思えないクレームがあり反響が。そもそも会社が作った制度であり、約束反故は問題。

▼組合員はエルダー・出向社員・プロパーで構成、高年齢化。昨年、大会時に宮里弁護士から同一労働同一賃金の講演があり、団交でバス社員と契約社員の通勤手当や年間休日間の格差を指摘、通勤手当が是正されたのは成果。ただし労働時間は非現実業が年1855時間、現業2000時間の格差。是正を取組む。

◆仙台分連協

▼各種行動を通じての仲間の声や要望等。本部からスト体制の確立に向け闘争指示。下部機関に下ろさない理由は、貨物組合員や役員だけでもストに入れないか。総決起集会や総行動で支社前のデモルートを。春闘時、毎金曜日、支社前でビラ配布をしては。北部現業前でチラシ配布を実施。同時に朝集会所して勤務に入る行動を春闘事務局で提起したが

分会でやってくれとの話。地本の指導で出来ないか。エリア・地本が全分会オルグを提起したが、出来なかった理由は、再雇用制度の行き詰まり。65歳定年延長を要望。住環境整備。平成34年には退去、延長申入れを。再雇用制度と住環境整備に対する署名提案をしてきたが返答がない。全国・東日本本部大会選挙について立会演説会の実施を求める。

空転防止の珪砂が粉末状で線路に。沿線住民、社員の健康被害はないのか更なる交渉を。また第三者機関の活用も必要。地本事務所を懇親会で

◆貨物福島

▼春闘総括(仲間の声)旅客の勝ち取る闘いが貨物のベアに繋がる。スト要請。貨物労組若手も低賃金で怒り。ストで闘う国労の姿を見たときその怒りの矛先は会社と貨物労組に向く。28年度決算では過去最高の利益でベアゼロ連続18年。期末手当は年額3ヶ月。北海道・四国・九州も鉄道部門は赤字、賃金・手当は高い。若手の多くが退職、身を粉にして働いて見返りがなく立つ瀬がない。

も解放を。分会費では金がかかり大変。検討を。毎年同じ闘いと結果。あきらめずに闘うというが、心は折れている。18年連続ベアゼロ。これでよいと思うのか。ストをしないとこののである別の戦術を。JR会社間格差は拡大。高齢化もあり士気が上がらず。若手の拡大が重要。様々な運動を取組むが良くならない。ストを望んでも決起しない。自暴自棄の状態。55歳からの3割カット。手当も低額回答が続き、家族にとっても大きな問題。若手は結婚も出来ないと相次いで退職。心の底から怒り。スト要請してもしない。旅客の仲間も前向きに考えて。スト要請に対し応えられない理由は何か。

▼貨物宮城

▼分会組合員の声。「なぜスト指令をだせないのか。早めのスト体制確立を。エリア本部の後向き姿勢に落胆。一部だけ一号奉アツプは差別」等。東北ロジの登用試験は7人中、2人が不合格。国労への差別感がある。

◆佐藤書記長

▼ジェス社員の独身寮借り受けは、浦和・大宮・立川等。空き部屋の貸し付けであり可能であれば。珪砂。会社は飛散したものが密閉状態であれば危険、解放された場所では危険性なしと主張。対立している部分。今後も交渉していく。珪砂の代替は一つに絞っていると聞く。

◆答弁等

▼佐藤書記長

▼ジェス社員の独身寮借り受けは、浦和・大宮・立川等。空き部屋の貸し付けであり可能であれば。珪砂。会社は飛散したものが密閉状態であれば危険、解放された場所では危険性なしと主張。対立している部分。今後も交渉していく。珪砂の代替は一つに絞っていると聞く。

▼仙台台車

▼原子書記長

▼スト対策費の議論。期間が短いのは承知。支部代表者会議を設定する。